

2022 年度における経営陣等と株主との対話の実施状況等について

2022 年度は、以下のとおり、株主と対話を実施しました。

株主との対話の主な対応者	取締役 専務執行役員、執行役員、IR 担当部長、IR 担当
対話を行った株主の概要	国内機関投資家、個人投資家
対話の主なテーマや株主の関心事項	<ul style="list-style-type: none"> ・当社のビジネスモデル ・当期業績の推移 ・中期経営計画の概要 ・E S G への取組み <p>特に株主から気づきが得られた対話、経営陣等の説明により株主の理解を得られた対話の事例</p> <p><u>当期業績について、国際複合輸送業が好調である理由</u></p> <p>国際複合輸送業は海外現地法人における業績が好調に推移。また、コロナ禍において、当社はお客様のサプライチェーンを維持するために真摯に取組み、従来のお客様に加え、新たな業務に結び付いたお客様他、様々なお客様から受命をいただき、取扱の幅を広げた。また、世界的な海上輸送の需給逼迫が解消し、正常に向かっているものの依然として高値であった海上運賃や為替における円安の影響などを受け、売上、利益が増加。</p> <p><u>今後の中長期的なビジョンについて</u></p> <p>中期経営計画に基づき、「化学品物流」「自動車部品物流」「消費財物流」「四日市港」を主要な事業と位置づけ、以下のとおり持続的な成長を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学品物流は、特殊化学品の取扱い拡大に向けて、営業展開を実施。また、半導体関連の特殊化学品をターゲットに、亀山市に建設する低温危険品倉庫など設備面での充実も図る。 ・自動車部品物流は、営業展開としては得意先との合併会社設立など基盤を強化。また、三重朝日物流センターの取得など、設備面での充実も図る。 ・消費財物流は、組織的な営業展開を図り拡大を目指す。 ・コンテナ専用耐震岸壁の延伸工事の着工に伴い、経営基盤である四日市港の機能強化を図る。また、安全で高品質な物流サービスの安定提供のために最新技術の研究開発に取り組むとともに、サステナビリティ経営を推進。

	<p><u>環境課題および地域課題に貢献する事業活動について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境にやさしい発電燃料であるバイオマス燃料を取扱う専用センターの運営 ・クリーンエネルギーに向けた取組みとして CO2 フリー電気の調達やみえ水素ステーション合同会社による移動式水素ステーションの運営 ・環境に優しい輸送手段として、鉄道および内航輸送を活用したバルクコンテナ輸送やコンテナラウンドユースの導入、リサイクル物流、海上コンテナシャーシ管理システムの導入、車両の大型化・パレット化等。 ・金融機関との合併会社設立により、地域活性化、事業拡大を目指す。 <p><u>配当方針について</u></p> <p>配当方針である「安定配当を基本方針とし、今後の経営環境の変化を踏まえ、財務体質の強化にも配慮しつつ、長期的、総合的な視野に基づく配当を実施する」との考え、ならびに 50 年近くに亘る実績として、過去から景気の変動に大きく影響することなく、増配基調で推移していること</p>
<p>対話において把握された株主の意見・懸念の経営陣や取締役会に対するフィードバックの実施状況</p>	<p>IR 推進委員会事務局が対話の概要をまとめ、IR 推進委員会に上程するとともに取締役が出席するサステナビリティ委員会で報告。</p>
<p>対話やフィードバックを踏まえて取り入れた事項</p>	<p>ホームページへのサステナビリティへの取組みの記載充実</p>
<p>その他の対話</p>	<p>決算説明会（オンデマンド配信）の実施、サステナビリティレポート等での情報の開示等</p>